

令和3年度進捗状況に対する委員意見に関わる今後の町対応について

No	事業番号	基本目標 基本施策	事業名	意見	今後の町対応(案)	担当課
1	1	1-1-①	公園等維持管理運営事業	いまある自然を、観光目的だけのためにむやみに改変することは、慎重に行うべきだと思います。防災、里山環境保全などの観点から慎重に検討する必要があると感じます。	吾妻山は二宮町のシンボルであるため、町民や訪れる方々が身近な自然環境にふれあえる場となるよう、動植物の生息状況に配慮し、いまある自然を活かした整備を実施するとともに、自然環境の維持・保全を図っていきます。	都市整備課
2	2	1-2-①	里山再生育成事業	指標を参加者とせず、実践者に変えた方がいいのではないのでしょうか。人材育成の観点を含めた事業として発展させるべきだと思います。	里山再生育成事業は町民を対象とした促進型事業であるため、イベント参加者を指標としておりますが、人材育成の観点も含め、連携先である里山づくり推進協議会及び加盟団体と今後の事業展開を検討していきます。	産業振興課
3	3	1-2-②	土地改良事業 (農道整備)	なぜ自然工法は草が繁茂するかの理由について深掘りして考える必要があるように感じます。自然は草を生やすことによって、土を流出しないようにさせているのかもしれませんが、草が繁茂しにくい自然工法もあるので、土中環境を悪化させてしまうコンクリートをなるべく使用しない方法での対策を模索していく必要があると感じます。	ご意見のとおり、草が繁茂しにくい工法もございますが、施工場所(修繕箇所)の状況によっては、緊急性を要す等の理由により工法が選べない状況となるため、引き続き、自然環境に配慮した工法が選択できるよう計画的な管理を行ってまいります。	産業振興課
4	6	1-2-⑤	緑の基本計画の推進	土地所有者とNPOを取り次ぐ役割を町が担っていたら、連携して自然環境の保全を推進する枠組みを作っていたらと思います。	土地所有者が山林等の管理を適切に行っているよう、里山再生や山林整備の知識・技術をもった団体と土地所有者をつなげ、良好な自然環境の保全ができるよう取り組んでいきます。	都市整備課
5	11	1-3-④	葛川水質調査の実施	民間委託の水質調査に費用がかかっているという認識です。近隣の大学や市民と連携して、安価で住民参加型の持続可能な調査方法を確立すると良いと思います。	住民参加型の調査となると、内容的には既存の調査よりも簡易的な調査となることが予想されますが、他自治体でも同様の取組があり、先進事例や成功事例などの情報収集を行い、当町での実施可否について検討していきます。	生活環境課
6	13	1-3-⑥	水資源に関する教育	水源林の見学に事業内容を変更してほしいです。気候が激変している昨今には弊害の方が多という世論が高まっています。水源林の視察は里山環境保全への啓発にもなり、里山保全のフィールドのある二宮では行動へも移しやすく、効果がより高いと感じます。	校外学習の内容については各校にて決めているため、今回いただいたご意見を、意識決定する際の参考とするよう学校に伝えていきます。	教育総務課
7	14	1-4-①	海岸保全対策事業	養浜だけでなく、砂浜の環境(植物)の改善も事業計画に入れてほしいです。砂浜の植物は砂を定着させることに資するという科学的見地から実行してほしいと思います。	町が管理する海岸(砂浜)は、梅沢海岸の漁港区域内のみとなります。ご意見のとおり、海浜植物は砂浜の飛砂防止に一定の効果があることから、漁港区域内の維持管理(草刈り等)を行う際には、引き続き、自生植物の保全にも配慮して施工していきます。	産業振興課
8	18	1-4-⑤	松の保全事業	薬剤注入は最終手段にさせていただき、ラディアンで上映した「杜人」の環境再生医矢野智徳さんの大地再生の考え方や手法で根本的な環境改善を進めてほしいです。	周辺民有林の自主管理を働きかけるなど、健全な松の管理に向けて、媒介虫が生息しにくい環境整備の促進を進めることなども検討していきます。	産業振興課

9	23	2-1-②	マイバッグ・マイボトル等の利用促進	マイボトル普及には、生活導線へのさらなる給水器の設置が必要だと思います。 ※例えばJR東日本とSDGsの枠組みで包括連携協定を結び、二宮駅に給水器を設置したり、賑わい創出で成功しているみらいはらっぱに設置するなど。	令和4年5月30日にウォータースタンド株式会社と「プラスチック削減の推進に関する協定」を締結し、町内14の公共施設及び、町立の小学校、中学校に給水スポットを設置しました。 ご意見のとおり、マイボトルをより一層普及していくため、引き続き啓発を実施し、新たな手法についても検討していきます。	生活環境課
10	24	2-1-③	水分もうひとしぼり運動	最終的には2-2-③（キエー口普及）につなげていく視点を入れても良いかと思えます。	ご意見のとおり、生ごみの水分をよく切って捨てることだけでなく、キエー口の普及にもつなげていけるような啓発となるよう努めていきます。	生活環境課
11	31	2-3-②	ごみ置場散乱防止対策（カラスネット配布）	ネットだけでは、やはりカラス被害はゼロにはできないと思います。飛散しない仕組みを早急に予算をかけてでも行うべきだと思います。 2-4-②にも関係しますが、ゴミの発生源は意外とポイ捨てより、こうした外的要因も多いのではないのでしょうか。	令和2年度より、新たに予算を設け、ファスナー付きカラスネットを導入し、カラス被害への対策強化に努め、導入後のアンケート調査では、利用者の方々から被害が減少したといった、ご回答を多数いただいているところです。 ごみ置場の管理は、利用者によるものとなっているので、ごみ出しルールや飛散防止に向けたマナーの向上などについて啓発を進めていきます。	生活環境課
12	37	2-5-①	地元産品の消費促進	こちらの事業はイベントだけでなく、日常の中で消費者が選べるような場所があると良いと思います。 ※百合ヶ丘のわくわく市場のような場所など。	テレビ取材等での地元産品PRや、児童向けの農業体験学習を行う際に、引き続き、地元産品の購入が可能な場所やサイトの情報等を周知していきます。	産業振興課
13	38	2-5-②	地元産品の循環型活用の促進	循環の仕組みを作ることができると良いですね。収穫した野菜をまた給食（地産地消、有機給食）に提供するなど、今後の展開に期待しています。 大規模な循環だと機械の故障などにより事業の進捗に影響があるかと思えます。	機械の故障により、稼働停止しておりました学校給食センターの大型生ごみ処理機については、復旧の目途がなくなり、来年度廃棄予定となっていることから、事業の継続が難しい状況となりましたが、ふれあい農園利用者などに生ごみ処理機購入補助制度について、引き続き周知を行い、堆肥の活用を推進するなどして、限りある資源を有効かつ効率的に活用していきながら、循環型社会の実現に向けた取組を推進していきます。	生活環境課
14	39,40	3-1 (2) -① 3-1 (2) -②	地球温暖化防止運動の推進 ムダな電力消費等の節約啓発	マイエコ10宣言はあくまでも宣言でしかないもので、一歩踏み込んでパワーシフト（再エネへの電力切り替え）、あるいは断熱や省エネ対策をした世帯数で評価した方が、環境保全に資するかと考えます。	町では、毎年冬に町立の小学校、中学校にマイエコ10宣言の実施及び回収をお願いしています。 また、マイエコ10宣言を実施してもらうだけでなく、結果を集計し、各学校にフィードバックをすることで、子どもたちの啓発につながるよう、引き続き実施していきます。 なお、町民の方々の実態をつかむことは困難なため、県の「0円ソーラー」などの制度について、引き続き周知・啓発をしていきます。	生活環境課
15	41	3-1 (2) -③	エコカーの導入（電気自動車等導入検討）事業	やらないよりやった方がいいと思いますが、費用対効果でいうとCO2削減の効果は低いと思います。 早目にエコカーにシフトして、基本計画からは除外してもいいのでは。 むしろ、シフトしたことを町民にうまくアピールすることの方が大きな波及を生むと思えます。	公用車の買い替えやリース更新時において、低燃費車や電気自動車の購入（リース）を積極的に検討するとともに、既存の電気自動車に関する利用の啓発に努めていきます。 また、電気自動車導入時においては、町民への効果的なPRにつながるよう努めます。	財務課
16	45	3-3-①	建築物の緑化の推進	温度上昇を抑制した具体的な効果をデータで知りたいです。	国の資料によると、グリーンカーテンにより日射の熱エネルギーを約80%カットできると記載されています。	生活環境課

17	47	3-3-③	花いっぱい運動の推進	<p>実際に、いまある自然の保全に資金を回した方が、環境保全に資すると考えます。自然と切り離された場所に花を植えても環境改善への好影響はありません。「緑いっぱい運動」などとし、里山の整備にシフトしていくなど、事業自体を見直してほしいです。</p>	<p>花いっぱい運動は、町民が親しみやすい身近な緑にふれあい、緑化意識の高揚を図ることを目的とした事業のため、継続し、実施していきます。 また、町内の里山の多くは民有地のため、所有者が適切な自然環境の保全を行える手法を研究していきます。</p>	都市整備課
----	----	-------	------------	---	--	-------